

～地域福祉計画・地域福祉活動計画において～

私大切にしたいことは	内 容
自分自身が活動参加すること	地域福祉は、住民の意識の高低がどうかで決まると思いますので、生活そのものが福祉とつながっていることの学習機会を沢山つくるべきと思う。 障害や介護や子育て支援に関係する本人、援助者もそれぞれ別のところで考えています。市の窓口の連携が今後こんなところに表れてくることを期待しています。
計画したことを実現すること	ひとりひとりが行動し、みんなで日進が幸せな街にしていきたいでしょう。
市民に目に見える形でわかる計画の進捗管理	せっかく皆で考えた計画が理想のみで、また絵に描いたモチで終わらない様に、進捗状況の把握、点検、見直しをお願いします。
人のつながり	情報伝達
協働の理念を地域住民にも理解してもらう事	地域で困っている問題を近所の人々と助け合っていく様に成る事を願います。
つながり	関係団体や拠点となる地域の住民や団体との交流や相互関係と協働をはかっていきたいです。
「地域たすけあい会議」の早期発足	福祉の推進＝地域内の信頼感がベース立場（老人会）上、地域の個々の団体（グループ）とのつながりをつくる。
情報発信	地域の社会資源を広く市民に伝えCSWが相談役となり、支援団体・個人など連携できるような街へ。
目標値の年ごとの進捗管理、見守り意見を出す	①多くの時間をかけて作成目標値は達成してこそ意味がある。 ②そのためには1年ごとに進捗管理をし、達成度を測る。 ③「絵に描いた餅」でなく毎年管理し、必ず成し遂げてほしい。
地域福祉に興味を持って尽力している方々の声はとどいておりますが、今後は声なき声に耳をかたむけ、全体の総意をくみ取れるような行政にしたいと思います	
事業の推進には、行政・社協・市民の意思の疎通の強化が必要	今回の計画策定サポーター会議の最初に、相手の意見を十分に聞きましょう。相手の意見を尊重しようを合言葉に会議は進められてきたが、それでは会議にならないと思いました。課題についてはそれぞれの立場は尊重しても、時間をかけて議論すべきであると感じた。